

パート練習

二学期が始まり学校生活も忙しくなってきました。この日は欠席も目立ちましたがその分、一人ひとりの技量に合わせた 限りなく個人レッスンに近いパート練習 になりました。



杉並区立宮前中学校 吹奏楽部 紹介

みんなときちんとコミュニケーションを取り、みんなでアイデアを出し合い、
「自分たちの部活の音はこんな音です」を大切に創り上げる吹奏楽部



宮前中学からは7名がワークショップに参加しています。団結力があり、会場の準備も積極的に声をかけ合いながら行っています。そして、他校の友だちとも楽しそうに会話をする様子がとても印象的です。

そこで日頃の練習を取材させていただきました

部員：40名（1年13名 2年14名 3年13名）
練習日：月・火・木・金・土 週5回

吹奏楽部顧問 劔持拓馬先生に伺いました 中学校は吹奏楽部でトランペットを吹いていました



Q:練習で大切にしていることは？

練習は順序立てて、基礎から積み上げていくことを大事にしています。また、同じくらい礼儀やマナーも大事に思っています。人間的にも基礎的なことをちゃんとやることが演奏面にもつながっていくからです。輪（和）を持って高め合い楽しんで演奏できるといいですね。

Q:どんな吹奏楽部ですか？

伸び伸びと演奏してくれています。先生がいないと練習出来ないではなく、みんなでコミュニケーションを取りアイデアを出し合い、課題に向かって前向きに解決していく子どもたちです。

Q:プロに学ぶ吹奏楽ワークショップについて

専門家の指導を受けることで音が変わってきていることがわかります。基礎をきちんと身に付け、その音を今度は部活で後輩や他の部員が聞くことで効果があると感じています。吹奏楽部同士で練習に向かう気持ちを高め、他校の人とも話し、つながることも楽しんでいると思います。

Point of view 私の視点



早稲田大学文化構想学部4年

2回目の練習では、「響きの街へ」の作曲者で、このワークショップの音楽監督・指揮者の福田先生から指導いただき、特に「響きの街へ」の背景についてお話をいただきました。そのため、今回は技術面だけでなく、曲のイメージを音で表現する練習が多く見られました。特にパーカッション指導での、「楽器はしよせん道具だから、プロの奏者でも楽譜に書かれた拍子通りに演奏するだけで十分だと思っている人もいる。だけど僕はそれだけでなく、ひとつひとつ音にイメージを持って弾かないと良い演奏にならないと思う。」という福島さんの言葉が印象的でした。音を鳴らすだけでなく、聴衆に伝えたいメッセージを音に載せることが合奏であると、改めて感じました。今回共有したイメージを演奏で表現する練習をしたことで、パート全体の音に一体感が生まれてきたと感じます。また前回のワークショップから一月空いていたため、自主練習でかなり上達していた生徒も多かったです。次回のワークショップで、皆さんのさらに進化した演奏を聴くのが楽しみです。

大学生ボランティアとして参加です

新しい視点を取り入れるため大学生ボランティアに参加してもらっています